令和8年度　学力向上アクションプラン

学校番号　156　　江戸川区立東小岩小学校

「全国学力・学習状況調査」平均正答率東京都との差			
学年	第6学年		
年度	国語	算数	合計
令和12年度の目標			
令和11年度の目標			
令和10年度の目標			
令和9年度の目標			
令和8年度の目標	+5	+10	+15
令和7年度の結果	+5.2	+11	+16.2
令和6年度の結果	+2.3	+4.6	+6.9
令和5年度の結果	+2.8	+6.5	+9.3

「江戸川区学力調査」平均正答率全国との差								
学年	第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
年度	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
令和12年度の目標								
令和11年度の目標								
令和10年度の目標								
令和9年度の目標								
令和8年度の目標	+1.8	0	+4.8	+4.8	+7.2	+3.9	+5.9	+9.3
令和7年度の結果	+1.8	-0.8	+4.6	+4.8	+7.2	+3.9	+5.9	+9.3
令和6年度の結果								
令和5年度の結果								

年度	令和7年度	令和8年度	
内容	成果と課題	目標	
学校全体	【成果】 ・校内研究（国語科説明文）をとして、全教室に「話合いを深める話型」を掲示し、全教員が意識して指導することで、自分の考えを伝える力や話合いを深める力を伸ばすことができた。 ・算数授業スタンダードを活用し、学習の流れが分かる板書や丁寧なノート指導を徹底することで、児童が見通しをもって学習に取り組むことができた。 【課題】 ・校内研究を通じて、自分の考えを相手に伝える力がついたので、今後はさらに相手の話を聞いて、自分の考えと比較したり、検討したりする力を身に付けていきたい。 ・授業に前向きに取り組む児童が多いので、その学習内容が定着するように反復練習を行っていく。AB層の割合を増やしていく。	・全学年で「伝え合い、学び合い、高め合う」学習過程を意識してた授業づくりを行っていく。 ・全学年で算数授業スタンダードを活用した指導を行っていく。	・昨年度に引き続き、「考えを深める聞き方」の話型を全教室に掲示し、授業で活用していく。 ・文章を読み解く力や自分の考えを文章で表現する力を身に付けるために「よむYOMUワークシート」を活用する。 ・算数では全教員が第１学年から第６学年の系統性を理解し、指導を行っていく。 ・アイテム教材を活用して、児童の理解度に応じて問題を選択し、習熟を行っていく。
第1学年	【成果】 ・国語と算数の学習では、話型を掲示し、話し合いの型を覚えさせることで、自分の意見を伝えられるようになった。 ・算数では、学習の流れが分かる板書とノート指導を丁寧に行うことで、学習に見通しをもって取り組むことができたとともに進んで学習に取り組む児童が増えた。 【課題】 ・毎日の音読や文章を書く指導をしてきたが、文を読むことや自分の考えを文章に表現することに苦手な児童がいる。 ・基礎となる数の構成や四則演算、時計の読み方が定着していない児童がいる。	・文書を読む機会を増やし、文章を読むことへの抵抗感をなくす。 ・自分の考えを言葉だけではなく、文章でかけるようにする。 ・算数の基礎学力を付ける。	・家庭学習で毎日音読の課題を出す。 ・本を読む機会を増やし、文章を読むことに慣れるとともに、語彙を増やしていく。 ・ミライシード「ドリルパーク」やワークを活用し、基礎問題に取り組む。 ・個に応じた課題を設定する。
第2学年	【成果】 （国語）・自分の考えや思いを文にしたり、発表したりして伝え合いができるようになった。 ・学習した内容をもとに、振り返りが書けるようになった。 ・「はじめ・中・おわり」の構成に意識をして文章を書くことができるようになった。 （算数）・かけ算九九をすらすら言えるようになった子が増えてきた。 ・問題文を読み、図を使って表すことができるようになった。 【課題】 （国語）・漢字は定着してきたが、文章の中であまり使うことができていない。 （算数）・繰り上がりや繰り下がりの定着に不安がある児童がいる。 （算数）・長さや水のかさなどの定着に不安がある児童がいる。	・全員が九九をすらすら言えるようになるように繰り返し行う。 ・伝え合いの機会を増やし、文章を読む・書くことに取り組む。 ・たし算やひき算などの、基礎知識を身に着ける。 ・漢字を何度も練習し、文章の中でも使えるようにする。	・宿題や音読を通して、漢字を読む・書くことを繰り返し取り組ませる。 ・復習問題を定期的に出し、これまで習ったことを復習する。 ・保護者との連携し、家庭学習の充実を図る。
第3学年	【成果】 （国語）・話型を用いた話し合い活動を取り入れ、叙述を基に考えを交流する学習を多く取り入れたことで、文章の内容を読み取る力の向上が見られた。 （算数）・乗法の基礎的な計算が身に付いている。 【課題】 （国語）・語彙や言葉の使い方、運用力に課題が見られた。 （算数）・加法、減法の繰り上がりや繰り下がりの理解が不十分であった。 ・「長さ」の単位換算の理解が不十分であった。	・（国語）語彙や言葉の特徴・使い方の理解を深め、言葉を適切に使う力を育てる。 ・（算数）加法、減法の繰り上がり、繰り下がりの理解を確実にし、計算力の定着を図る。 ・長さの単位関係を理解し、単位換算ができる力を育てる。	・授業の導入やまとめの時間に新出語句や重要語句を取り上げ、意味を確認したり短い分を作ったりする活動を取り入れ、語彙の理解と運用力を高める。 ・「長さ」の学習において、ものさしや巻尺などの具体物を用いた活動を行い、mとcmの関係を実感的に理解させるとともに、単位を変換する練習を取り入れる。
第4学年	【成果】 ・本文を要約する活動を繰り返し行ったことで、短い文で必要なことをまとめる力が伸びた。 ・話型を指導し、話し合い活動を頻繁に行ったことで、目的意識をもち、事実と意見を区別したり、根拠を明確にして話そうとする力が伸びた。 ・日常的に計算問題に取り組ませたことで、正確に計算できる児童が増えた。 【課題】 ・「話すこと・聞くこと」において「大事なことを漏らさずに聞く」「相手の方を見て、適切なタイミングでうなずく」などコミュニケーションを深める聞き方を身に付けられるようにする。 ・「データの活用」で、折れ線グラフやニ次元表を用いて、整理されたデータが何を表しているかということを説明できるようにする。	・要点を捉えて簡潔にまとめる力をさらに伸ばす。 ・目的に応じて根拠を明確にしながら話し合う力を高める。 ・折れ線グラフや二次元表を用いて、データの特徴や変化を説明できる力を身に付ける。	・毎週1回の「YOMUよむワークシート」を活用する。「YOMUよむノート」を作成し、 ・ペア要約やリレー要約を取り入れ、他者の視点と比較しながら要点を捉える力を伸ばす。 ・読書活動と連動し、読書メモに短い要約を書く習慣をつける。 ・身近な題材（気温、歩数、睡眠時間、給食の人気など）を使い、児童自身がデータを集める活動を取り入れる。
第5学年	【成果】 ・江戸川区学力調査の各問題は、算数科「変化と関係」を除いて、すべての領域で全国の平均を超えることができた。国語ではA層とB層の合計が昨年度よりも25.2%伸びた。 ・（国語）毎週１回、よむYOMUワークシートに取り組んだことで、文章を読んで自分の考えを書く力が伸びた。 ・（国語）話型を指導し、話し合い活動を頻繁に行ったことで読む目的が明確になり、考えながら読み、その考えを表現する力が伸びた。 ・（算数）読む力が高まったことから、文章題で何を聞かれているかを読み取り考える力がついたため、応用問題に取り組む力が伸びた。 【課題】 ・（国語）「聞かれたことに正しく答える」「主語述語のねじれなく書く」など正しく文章を書くことに課題がある。 ・（算数）領域「変化と関係」、分数、小数の計算に課題がある。	・（国語）言葉を正しく使い、文章を正しく書くために、辞書や辞典を正しく使用し、日常的に活用できるようにする。 ・（算数）既習の計算問題を確実に解けるようにする。	・（国語）毎週１回の「よむYOMUワークシート」を活用し、課題に応じた自分の考えを１００字で書かせる。 ・（国語）辞書を引く習慣をつけるために、国語科や朝学習の時間に辞書を使う活動を取り入れる。 ・（算数）ミライシード「ドリルパーク」やワークを活用し、基礎問題に取り組む。
第6学年	【成果】 ・江戸川区学力調査の各問題は、国語、算数ともにすべての領域で全国の平均を超えることができた。国語では4.8、算数では3.2ポイント、D層の割合が減った。 ・（国語）毎週１回よむYOMUワークシートに取り組んだことで、文章を読んで自分の考えを書く表現力が伸びた。 ・（算数）グラフや表から必要な情報を読み取る力が伸びた。 【課題】 ・（国語）話を聞き、内容を正確に理解することにやや課題がある。 ・（算数）分数、小数の計算や「データの活用」にやや課題がある。	・（国語）普段から教師や友達の話を聞き、主旨や要点を捉えられるようにする。 ・（算数）既習の計算問題を確実に解けるようにする。	・（国語）毎日、朝のスピーチの時間を活用し、話を聞く習慣をつける。 ・（算数）ミライシード「ドリルパーク」やワークを活用し、基礎問題に取り組む。